

2026年9月15日

報道関係者 各位

兵庫医科大学

武庫川河川敷 国内初記録のセノウナガタムシ 大学近くで学生が発見 連名で論文 石川ふれあい昆虫館で標本展示



兵庫医科大学（所在地：兵庫県西宮市、学長：鈴木敬一郎）は、本学の学生が同市武庫川町の武庫川河川敷で、国内初記録となるセノウナガタムシを発見したことをお知らせします。

日本昆虫分類学会の学会誌「Japanese Journal of systematic Entomology」で2026年7月30日、日本で初めてセノウナガタムシが発見されたことが発表されました。これまでは台湾にしか生息していないとされ、世界で2地域目となります。

発見したのは、京都府立大学特別研究員の瑤寺裕さん＝大学院生命環境科学研究科＝や、同大医学部5年の井藤将大さんら4人のグループ。井藤さんは22年6月20日、体長6ミリの程度で雄の成虫を河川敷で採集しました。

セノウナガタムシはタムシの仲間で体長7ミリの程度。細長いナガタムシの一種で黒色の体に白い斑点と縁取りがあるのが特徴です。1988年に台湾で初めて発見され、発見者にちなんで学名が名付けられました。

16年に大分県で昆虫研究家の堤内雄二さんが発見し、タムシを専門に調べている石川県白山市の「石川県ふれあい昆虫館」学芸

員の福富宏和さんに情報が寄せられました。標本を預かった福富さんが、瑤寺さんとともに調べたところ、日本では知られていない種であることが分かりました。国内初記録として瑤寺さんを中心に論文にまとめる準備をしている中、井藤さんが兵庫県でも採れたことを連絡。本州にも分布していることが分かり、4人が連名で論文を発表することとなりました。論文では、雌雄の生殖器などの形態学的特徴について述べるとともに、日本のナガタムシでは知られていなかった性的二型についてもまとめました。

課外活動として同大の菅原文昭教育教授（生物学）の助言を受けながら大学周辺で昆虫を採集し、記録や報告を行っている井藤さん。同大から約50メートルしか離れていない近場でセノウナガタムシを発見したことについて、「菅原先生が国内未記録種の可能性を指摘してくれたおかげ」と話し、セノウナガタムシが庭木や街路樹として植栽されるセンダンで採集されることから、大分県や兵庫県以外でも発見されることに期待を示しました。

タムシは、世界に1万5千～2万種が生息するとみられ、今でも新種の発見が相次いでいるといいます。今回の発見で、国内産のタムシは224種類となりました。

同館内の展示コーナーでは、標本や解説パネル、発表論文が紹介されています。



《参考文献》

Tamadera, Y., Tsutsumiuchi, Y., Ito, S. & Fukutomi, H., 2026. Occurrence of *Agrilus senohi* Tôyama (Coleoptera: Buprestidae) in Japan: Diagnosis, Additional Description, and Sexual Dimorphism of Tarsal Claws. Japanese Journal of systematic Entomology 32 (1), 142–148.

■写真説明／

(左上) 兵庫県産セノウナガタムシの標本（瑤寺裕さん提供）

(右下) 昆虫を採集する井藤将大さん＝武庫川河川敷

【取材に関する問い合わせ】

兵庫医科大学 総務部広報課 【電話番号】 0798-45-6655 【E-mail】 kouhou@hyo-med.ac.jp